

# 令和7年度 犬山市の経済動向についての分析結果

## 犬山商工会議所

令和8年1月30日

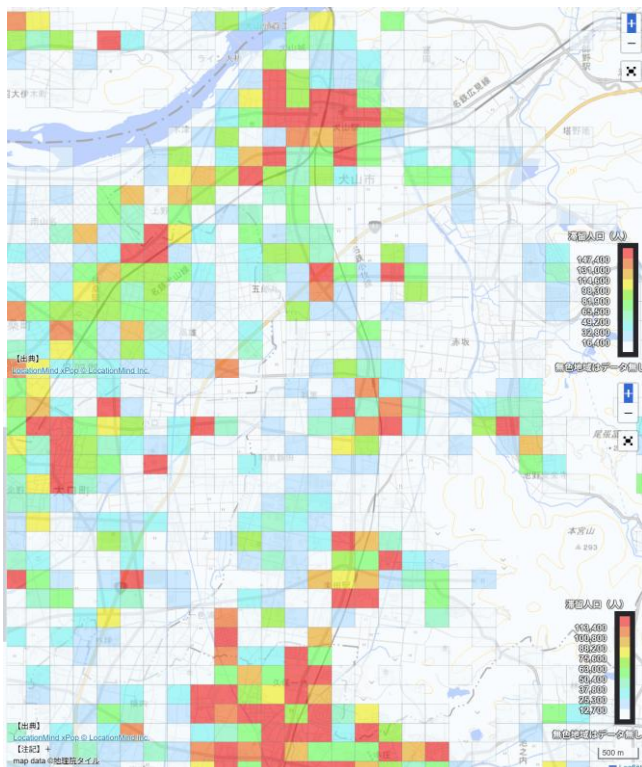
犬山商工会議所の令和7年度事業として、「RESAS（※）」を用いて犬山市の経済動向の分析を行いました。

各調査項目においての推移や他市町村との定量的な比較をすることで、犬山市の特性や長所／短所などが見えてくるものとなっております。これから起業しようとお考えの方、もしくは以前より犬山市内で商売をしている方にとって今後の経営戦略を組むうえで参考になる部分が含まれている可能性が高いので、民間企業を経営されているみなさまにはぜひご覧いただけますようお願いいたします。

※ RESAS（リーサス）は、内閣官房のデジタル田園都市国家構想実現会議事務局及び内閣府地方創生推進事務局が運用している産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のいわゆるビッグデータを集約し、可視化を試みるシステムである。地域経済分析システムという表現も用いられる。RESAS は、Regional Economy (and) Society Analyzing System の略である。（wikipedia より）

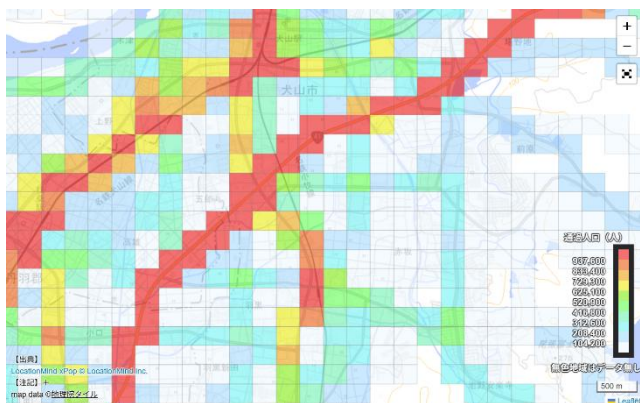
# 1. マーケティングマップ

## ・滞留人口メッシュ分析



時間帯を日中に絞ると、モンキーパーク、リトルワールド、明治村、村田機械、エナジーサポートアリーナにも集中しており、仕事や観光・レジャーだけでなくスポーツ施設の利用者も多い

## ・通過人口メッシュ分析

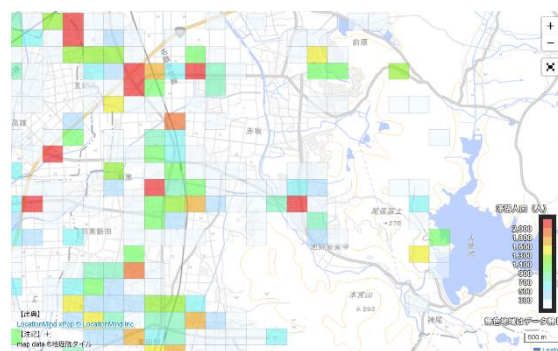


そのほか、小牧東インターチェンジへ向かう道路の通行量が多いことがわかるが、こちらについては目的地としてではなく通過点として利用であり、多治見・春日井方面と接続している。このルートについては通行量の連続性を見たところリトルワールド・明治村を目的地としているものと推測される。

すべての時間帯で見た場合、犬山駅周辺、観光客の多い道路、中山町、イクサム・マックスバリュ近辺、旧清水屋跡地、犬山ガス付近、カネスエ・三河屋・総合犬山中央病院地域、犬山ニュータウン、長者町、羽黒駅周辺、楽田駅周辺がメッシュの濃いエリアとなっている。

楽田地区の南側は小牧市になるが、そこからすぐにメッシュの濃いエリアが広がっている。小牧市の中心部ではないにもかかわらず犬山市の中心エリアと同等以上の滞留人口があるということは、立地が犬山市内である場合は商売などが不利に働くことが懸念される。

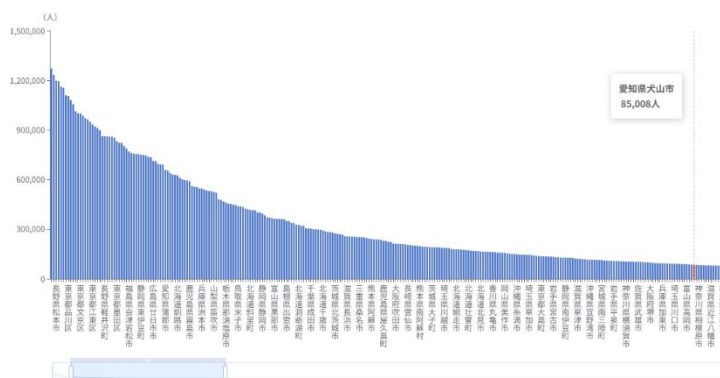
また名鉄小牧線・旧41号（県道27号線）線沿いや名鉄犬山線・県道64号線沿いが特に発展しているが、それ以外のエリアは発展していないことを示す。それは市街化調整区域が多くを占めているため仕方がないにせよ、市街化区域についてはまだ発展の余地があると言える。



犬山では国道41号線という大動脈があり、次いで旧41号（県道27号線）が最も交通量が多い。その中でも特に犬山駅、羽黒駅、楽田駅付近で交通量が増しており、これらの駅周辺を目的地として車両が走行していることがわかる。そしてそれらの駅を中心に東西南北への交通量が増えており、犬山の中心市街地は犬山・羽黒・楽田であるといえる。

## 2. 観光マップ

ご存知のとおり、犬山には観光地点や観光に付随する施設が多い。しかし、全盛期には犬山温泉としてたくさんの宿泊施設と部屋数が存在したものの、景気の後退に伴い耐力の弱い旅館は廃業し、ホテルも規模を縮小して稼働するようになった。



これには2つの原因が考えられ、1つは名古屋市や岐阜市のような人口密集地から近く日帰りで行ける距離であるため多くの観光客が宿泊を必要としていないことである。またもう1つの原因として、名古屋→犬山→高山と観光をする場合、名古屋や高山が宿泊地として選ばれる点が挙げられる。犬山には老舗の大浴場・露天風呂つき温泉ホテルもあるが、それよりも宿泊施設の多い名古屋や高山のほうが選択肢も多く、そこに価値を見出すというニーズが存在するものと推察する。

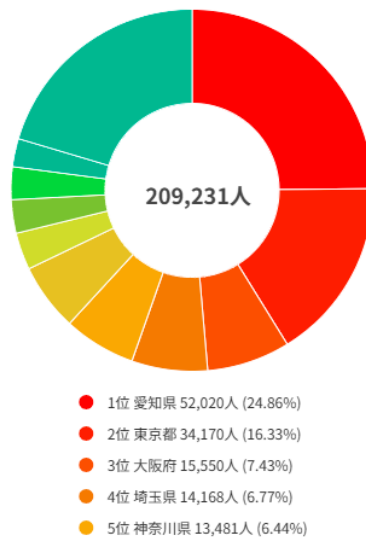
観光客の宿泊者が少ないということは滞在時間にも影響し、宿泊業だけでなくそれ以外の業種である飲食サービス、土産品、体験サービスの売上高にも影響があることは想像に容易い。



縮小されたといっても観光地であることには変わらず、一定数の宿泊施設は存在する。

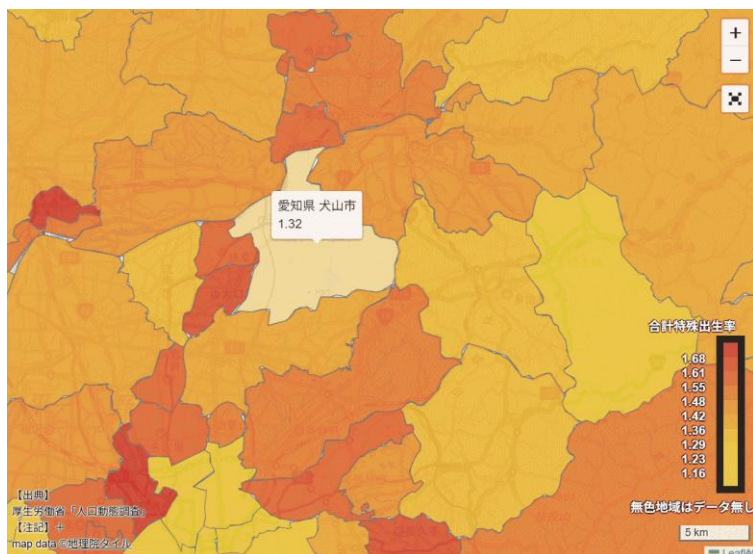
しかし他の観光都市と比べた場合、例えば岐阜県高山市と比較すると、観光客数はほぼ同等であるにもかかわらず、宿泊者数は犬山が212,753人、高山が2,765,809人と10倍以上の開きがあり観光客数の割合から考えると宿泊する人が非常に少ないと言える。

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合  
2023年 愛知県 犬山市



### 3. 人口マップ

#### ・自然増減分析

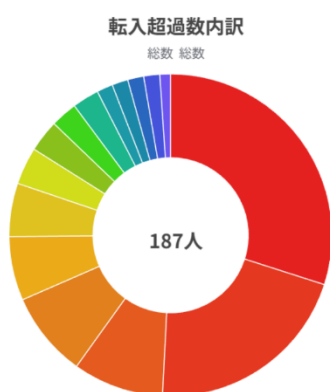


合計特殊出生率については、犬山市は昔から低めであったが、多治見や瀬戸はさらに低かった。

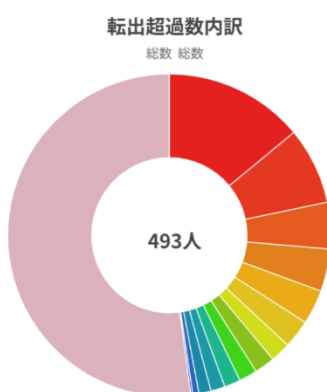
しかし数十年が経過したことで多治見・瀬戸の合計特殊出生率は改善された。そのような中 犬山市は横ばいを続けており、結果 現在では近隣市町村のうちで最低となっている。

#### ・社会増減分析

From-To分析（定住人口）  
愛知県 犬山市  
2023年



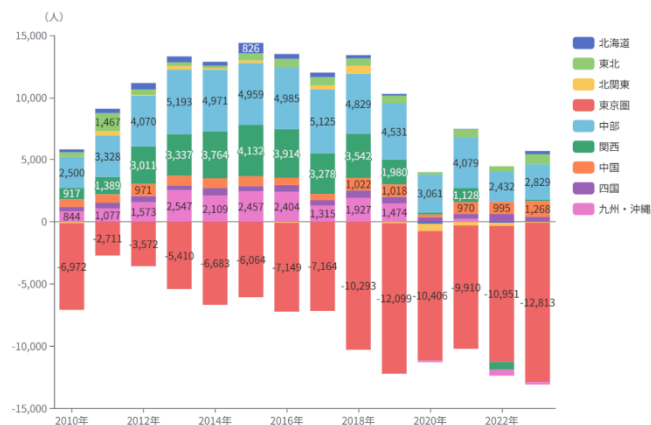
- 1位 愛知県小牧市 56人 (29.95%)
- 2位 愛知県安城市 39人 (20.86%)
- 3位 愛知県春日井市 17人 (9.09%)
- 4位 愛知県大口町 16人 (8.56%)
- 5位 岐阜県多治見市 12人 (6.42%)
- 6位 愛知県一宮市 10人 (5.35%)
- 7位 岐阜県関市 7人 (3.74%)
- 8位 岐阜県大垣市 6人 (3.21%)
- 9位 岐阜県可児市 5人 (2.67%)
- 10位 愛知県北名古屋市 5人 (2.67%)



- 1位 愛知県名古屋市長 69人 (14.00%)
- 2位 愛知県扶桑町 38人 (7.71%)
- 3位 岐阜県各務原市 23人 (4.67%)
- 4位 愛知県江南市 21人 (4.26%)
- 5位 神奈川県横浜市 17人 (3.45%)
- 6位 大阪府大阪市 14人 (2.84%)
- 7位 京都府京都市 10人 (2.03%)
- 8位 愛知県岩倉市 10人 (2.03%)
- 9位 愛知県豊田市 9人 (1.83%)
- 10位 岐阜県岐阜市長 8人 (1.62%)

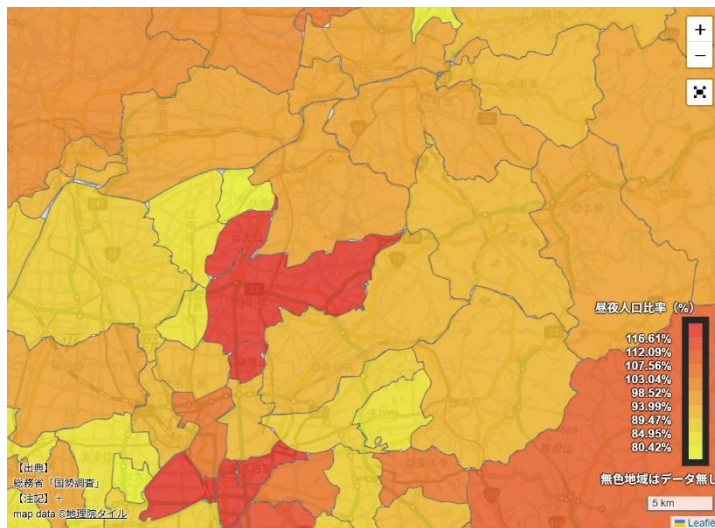
転入・転出については2022年までは多少の増減を繰り返すだけであったが、2023年になって転出が大きく上回った。半数以上がランキング外のその他の市町村である。

また別の表である愛知県の転入・転出について、2020年以降から転入より東京圏への転出割合が大きくなっており、このことから犬山市から東京圏である関東各地への転出が多くなっていることが推測される。





## ・通勤通学人口分析



昼と夜の人口比率については、2020年の犬山市では96.14%となっており、比較的夜のほうが多い「ベッドタウン」として機能していることがわかる。

それに引き換え小牧市・大口町・豊山町・名古屋の多くの区は昼のほうが人口が多く、仕事やその他日中の活動があり経済活動が盛んであることがわかる。

### 昼間人口・夜間人口の年齢階級別構成割合

2020年 愛知県 犬山市

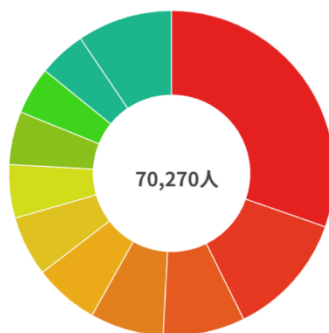
総数

昼間人口：70,270人

夜間人口：73,090人

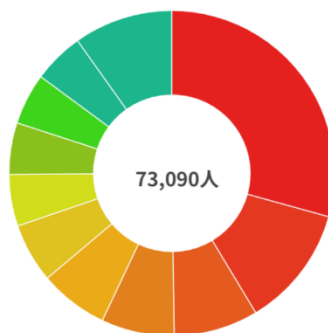
(昼夜間人口比率：96.14%)

昼間人口



- 1位 65歳以上 21,317人 (30.34%)
- 2位 15歳未満 8,689人 (12.37%)
- 3位 45～49歳 5,709人 (8.12%)
- 4位 50～54歳 5,126人 (7.29%)
- 5位 40～44歳 4,536人 (6.46%)
- 6位 55～59歳 4,203人 (5.98%)
- 7位 35～39歳 3,724人 (5.30%)
- 8位 60～64歳 3,713人 (5.28%)
- 9位 20～24歳 3,309人 (4.71%)
- 10位 30～34歳 3,301人 (4.70%)
- その他 6,643人 (9.45%)

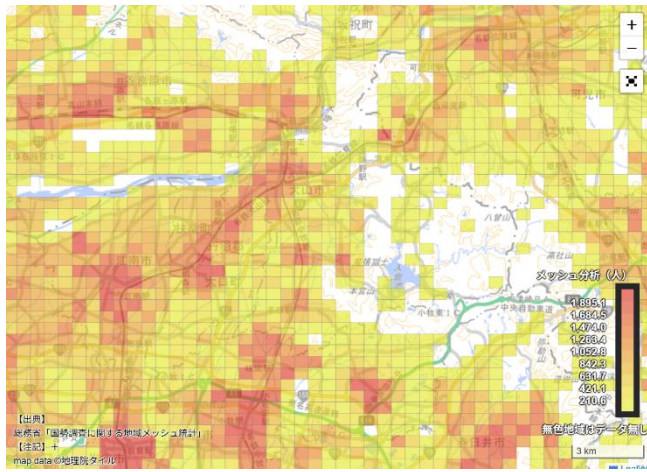
夜間人口



- 1位 65歳以上 21,416人 (29.30%)
- 2位 15歳未満 8,825人 (12.07%)
- 3位 45～49歳 6,130人 (8.39%)
- 4位 50～54歳 5,301人 (7.25%)
- 5位 40～44歳 4,998人 (6.84%)
- 6位 55～59歳 4,311人 (5.90%)
- 7位 20～24歳 3,752人 (5.13%)
- 8位 60～64歳 3,751人 (5.13%)
- 9位 35～39歳 3,727人 (5.10%)
- 10位 15～19歳 3,691人 (5.05%)
- その他 7,188人 (9.83%)

年代で分けると、すべての年代において昼より夜に犬山に居る人が多いということは、すなわち仕事や学校で市外へ行っている人が多いことを示すが、その中でも特に20～24歳の新卒頃年齢の割合が高い。これは新卒者が他の市町村に取られていることを示しており、犬山市での新卒採用の弱さが浮き彫りとなっている。

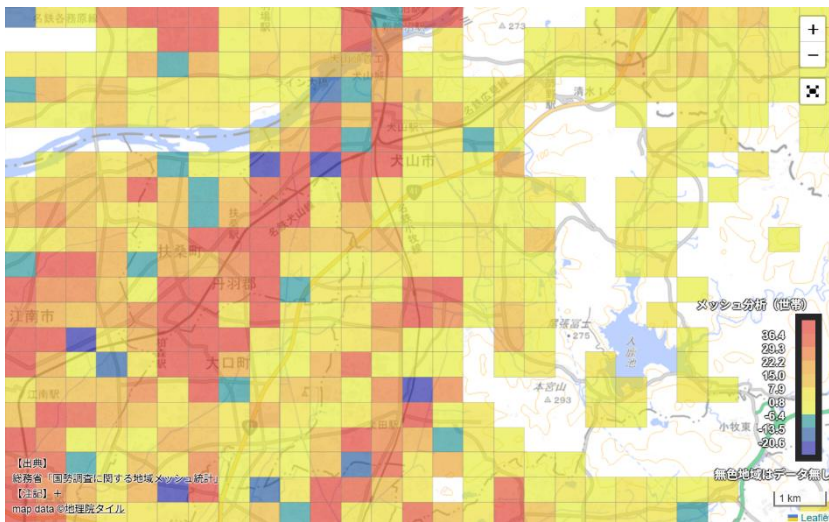
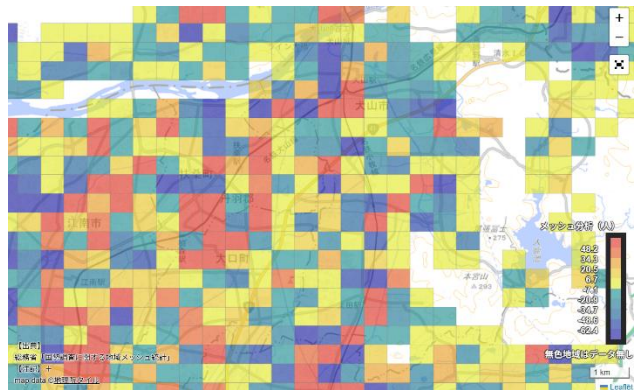
・地域人口メッシュ分析



しかし北古券、東古券、南古券は人口が減少しており、観光ルートとして利用されていることとの相関関係が疑われる。

また、羽黒駅周辺が駅前であるにもかかわらず人口が減少傾向であることも気にかかることである。

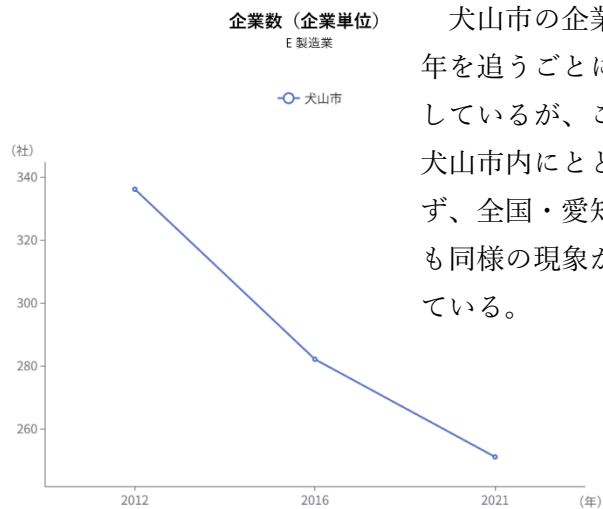
エリアごとの人口（密集度）については、犬山駅周辺、羽黒駅周辺、楽田駅周辺、四季の丘、上坂町、長者町が濃いメッシュとなり、人口密度が高いことがわかる。



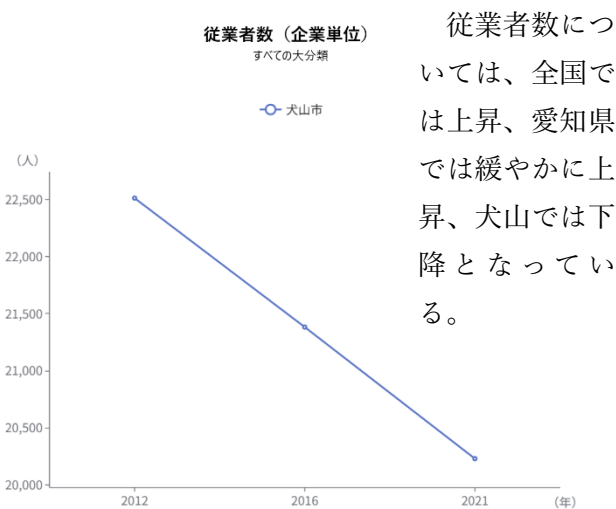
ただし世帯数は全体的に増加傾向であり、核家族化・単身者の増加を示すものであると考えられる。

## 4. 産業構造マップ

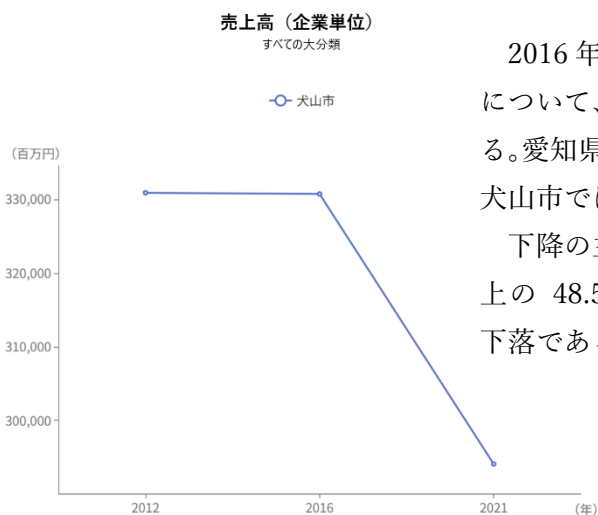
### ・産業構造分析



犬山市の企業数は年を追うごとに減少しているが、これは犬山市内にとどまらず、全国・愛知県でも同様の現象が起きている。



従業者数については、全国では上昇、愛知県では緩やかに上昇、犬山では下降となっている。

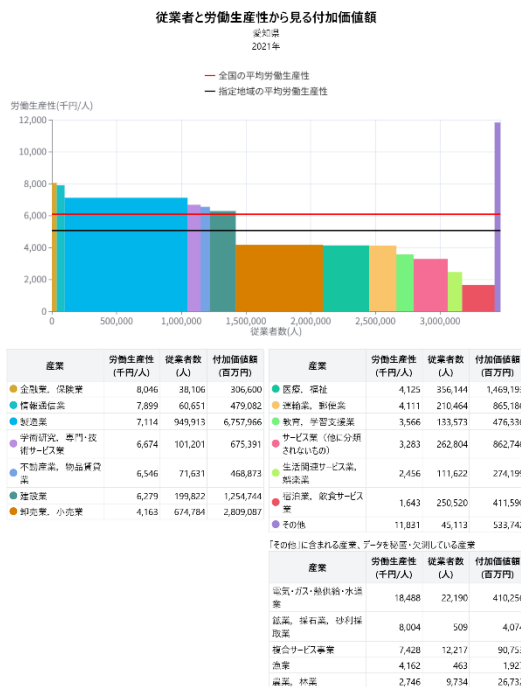


2016年から2021年の売上高について、全国では上昇している。愛知県としてはほぼ横ばい。犬山市では下降している。

下降の主な原因は、犬山の売上の48.5%を占める製造業の下落である。



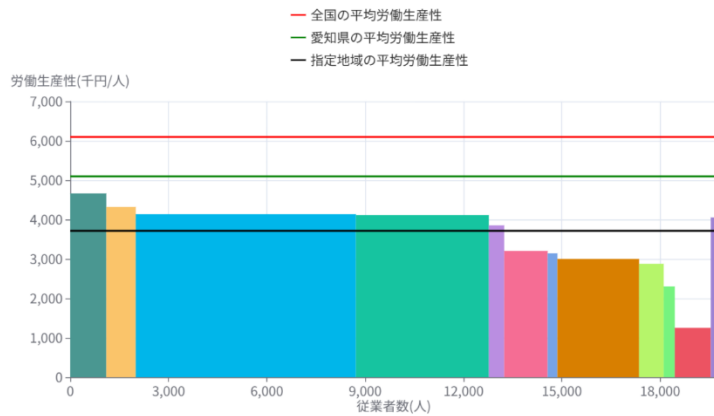
従業者数と売上高の関係を着目すると、愛知県全体では従業者数は増加しているにもかかわらず売上は横ばいであるということとなり、労働生産性が落ちているという考察が導かれる。



それでも愛知県の労働生産性は全国平均を上回っている。しかしこれは、愛知県は製造業で保っているからほかの弱点になっている業種をカバーできていたという意味でもあるが、製造業の稼働力が下がってしまったことで愛知県の労働生産性は全国平均に比べ17%ほど低いという結果に繋がってしまっている。

## 従業者と労働生産性から見る付加価値額

愛知県犬山市  
2021年



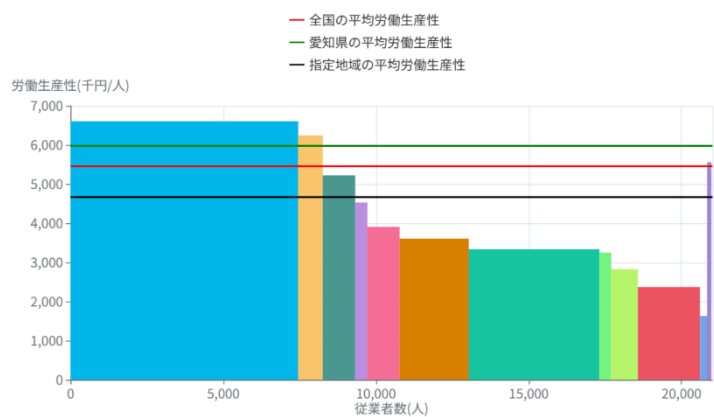
産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)	産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
建設業	4,662	1,102	5,138	不動産業、物品賃貸業	3,143	301	946
運輸業、郵便業	4,321	900	3,889	卸売業、小売業	3,000	2,491	7,474
製造業	4,138	6,717	27,792	生活関連サービス業、娯楽業	2,876	751	2,160
医療、福祉	4,113	4,055	16,679	教育、学習支援業	2,301	339	780
学術研究、専門・技術サービス業	3,854	471	1,815	宿泊業、飲食サービス業	1,252	1,097	1,373
サービス業（他に分類されないもの）	3,203	1,322	4,234	その他	4,052	154	624

「その他」に含まれる産業、データを秘匿・欠測している産業

産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
金融業、保険業	14,594	32	467
情報通信業	3,000	34	102
農林漁業	625	88	55
複合サービス事業	-	8	X
電気・ガス・熱供給・水道業	-	33	X

## 従業者と労働生産性から見る付加価値額

愛知県犬山市  
2016年



産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)	産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
製造業	6,602	7,456	49,223	医療、福祉	3,334	4,277	14,258
運輸業、郵便業	6,242	801	5,000	教育、学習支援業	3,248	391	1,270
建設業	5,221	1,063	5,550	生活関連サービス業、娯楽業	2,825	868	2,452
学術研究、専門・技術サービス業	4,529	399	1,807	宿泊業、飲食サービス業	2,370	2,033	4,818
サービス業（他に分類されないもの）	3,906	1,053	4,113	不動産業、物品賃貸業	1,630	238	388
卸売業、小売業	3,606	2,264	8,163	その他	5,555	137	761

「その他」に含まれる産業、データを秘匿・欠測している産業

産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
金融業、保険業	24,000	26	624
情報通信業	1,614	57	92
農林漁業	833	54	45
複合サービス事業	-	7	X
電気・ガス・熱供給・水道業	-	29	X

一方 犬山市はどの業種においても労働生産性が愛知県の平均に及ばず、全国平均から大きく溝を明けられた形となっている。

犬山市の従業者数が減少しているのであれば労働生産性を上げることによって売上高をキープしたいところであるが、そのためには生産効率を上げるか、もしくは可能であれば技術力の高さを活かして利益率の高い仕事受注する必要がある。

ちなみに昔から犬山市の製造業の労働生産性が低かったわけではなく、2016年には愛知県の労働生産性は高く、さらにそれを上回る労働生産性が犬山市にはあった。

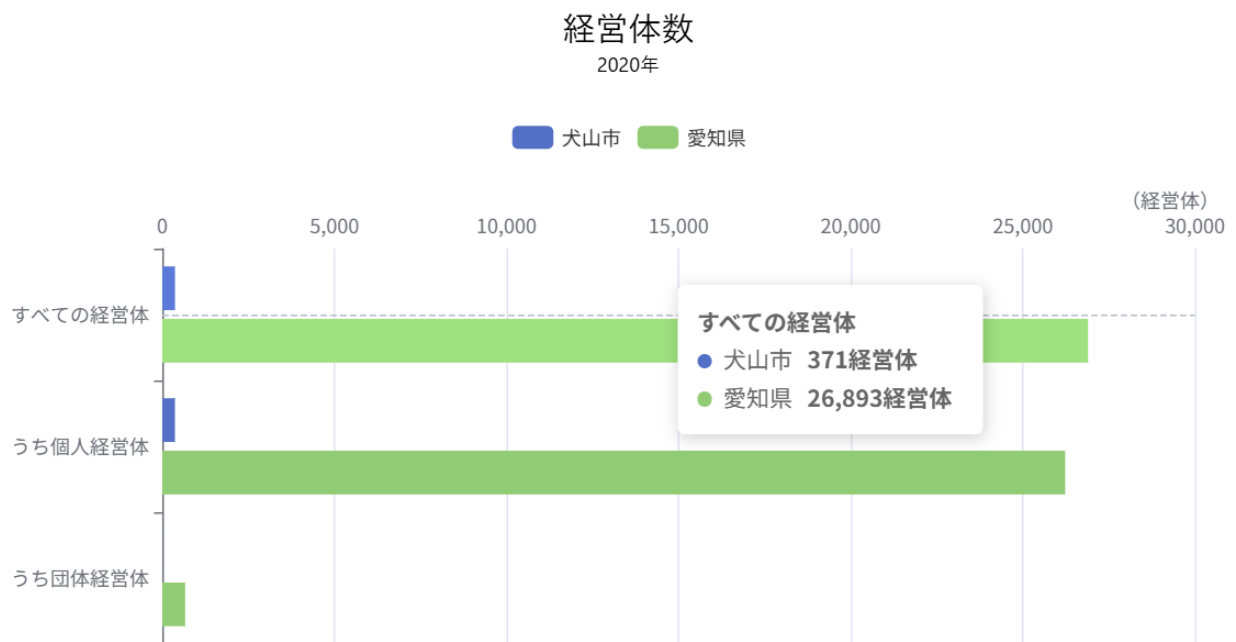
この 2021 年での落ち込みの主な原因は、自動車関連の生産・出荷の落ち込みおよび COVID-19 ショックによるものだと考えられ、全国ではやや下がり、愛知県では大きく下がり、犬山市ではさらに極端に影響を被ったものと推察される。



また犬山の産業の中心は「はん用・生産用・業務用機械」であるというだけでなく、全国市区町村において31位と、この分野においてトップクラスの生産額である。

## 6. 農林業漁業マップ

### ・農業経営体分析



このグラフを見ると愛知県の中において犬山市の農業者数は少ないように見えるが、愛知県のうちで犬山市が占める面積が1.45%であることを鑑みれば妥当な数である。ただしほとんどの割合を個人経営体が占めており、組織的な経営体が少ないことから農業継続の不安定さが懸念される。

あとがき

リーサスでは各機関が調査した結果からデータを提供しており、調査項目によっては市町村別のものであれば都道府県別での調査や機関の定める地域別での調査もある。昨年度までは豊富なデータが提供されており犬山市としてのあらゆる分野においての分析をするのに適切なデータが提供されていたが、2025 年 3 月のバージョンアップ以降 犬山市の分析をしようとした際に使えるデータが限定的となってしまった。

また今回の分析においても、リーサスに公開されている最新の情報が項目によっては 2018 年のものであったりと、現在の結果として報告をするのに不向きな部分もあった。

そもそもウェブ上には各機関が調査した統計データが把握しきれないほど存在しており、その中で内閣府が公開しているデータであれば信頼できて調査分野も多岐にわたることからリーサスが選定されたが、バージョンアップ以降 その特長が失われてしまった。

リーサスの情報に限定して犬山市の経済を分析することとなった最たる理由は、以前は無数にある統計サイトから必要な情報を探し当てることは非現実的であり、リーサスに限定することが最適であったからである。しかしここ数年の技術革新により A I が実用レベルに達し、ビッグデータからのデータ抽出が容易になった。

そのため、次回からはリーサスを用いた経済動向分析ではなく、A I を用いた犬山市の経済動向分析として公表していきたい。